



人気グラドル
勝負下着
ナマ脱ぎ
動画



純白パンティ
神々しいエロス
ピクリ袋とじ
ミトちゃん
美乳ヌード



熱烈アンコール掲載
彼女が誰?
の問い合わせ殺到!

美女医が熱血指導 **60歳の壁** 越える **SEX** ジャニーズの次にBBCが暴いた **痴漢** の闇

潜水艇事故「むごすぎる死体」 神戸6歳児遺棄 32歳次男の蛮行

大暑のスーパーデラックス特大号

金曜自白 970円

00歳

012545

1等前後賞

7億円

連番3枚 500音プレゼント

タローマン参上

岩井姉妹&シブヨ
全米でいく!

大谷翔平「ワールドシリーズMVP」見えた

2023年8月30日(金)発行(発売)9月1日発行(発売)9月21日発売2023年8月29日(金)449円(1日339円)9月1日339円

没後1年 回顧録には
追悼大特集 書いていない

女性政治家が語る「心を鷲掴みにされた瞬間」


小池百合子 高市早苗 稲田朋美 野田聖子 ほか

橋下徹「安倍さんを維新で総理に」**幻**構想

安倍派議員108人「次の会長」アンケートの仰天結果

昭恵夫人「岸田さん、私は使い捨てですか？」

安倍晋三秘録



2023 Jul. 7.14 特別価格540円

3万8915円

これからが本番です **日経平均**「バブル超え」で何が起きるか?

年間1万8000人が行方不明の衝撃
認知症の親が失踪 どのようにする

専門医も高評価「リフトフォームで脳が活性化する」
100歳までボケない家


本誌スクープ「女性キャスターの禁断愛」記事をきっかけに夫にとんでもない災難が?

テレ朝社員「三浦瑠麗裁判」完勝の軌跡

白衣高血圧に騙されるな／血糖値よりHbA1C
副作用で数値を上げる薬／二次性高血圧が一番危ない
降圧剤やめたら元気がなくなった／梅沢富美男「ジジイはとにかく食べ」

高血圧&高血糖でも
ピンピンしてる人の条件

猿之助逮捕!
「殺人罪」への緊迫



【いま、日本経済に何が起きているのか?】

これからが本番で「4万円」を突破——その

日経平均「バブル超え」で

日経平均 Nikkei Stock Average
33706.08
+220.59

ニッポンに起きること

あるいは「崩壊」の悪夢が再来するののか? —
モノがどんどん売れて、人がみんな元気だったあの頃が戻ってくるののか? —

「財テク」に熱心な時代だった。当時証券マンだった平野氏はこう振り返る。「法人営業だった私も、毎晩のように銀座で接待に明け暮れ、夜な夜な高級料亭から高級クラブをはしごしたものです。一晩に数十万円使っても、翌朝には接待相手から数百万円分の注文が届いたりしていました」

庶民の暮らしぶりにつ

「リーマン・ショックが起点」
以来、日本は「失われた30年」と呼ばれる低成長時代に突入する。なぜバブルは弾けたのか。「主要な原因は政府・日銀による金融・財政政策と考えられます。89年12月に三重野康・日銀総裁が就任すると、急激な金

時、物価は、給料はどうなる?

ブル超え」で

史上最高値3万8915円

に起きること

この1か月あまり、ニュースでは何度も「日経平均のバブル後最高値更新」の見出しが躍った。当然ながら次はバブル超えとなる「日経平均4万円」の期待も高まるが、物価高で実質賃金はマイナスのまま。肌で好景気を感じた「昭和・平成バブル」と「令和バブル」は何が違うのか。株価がバブル超えとなった日本では、何が起きるのか。

誰もか浮かれていた時代
週末の夜ともなれば街に人が溢れ、ディスコのお立ち台ではボディコン姿のうら若き女性が扇子を片手に激しく踊る。それを取り巻くようにフロアにひしめく無数の男たち——バブル華やかなりし頃、東京をはじめとする盛り場でお馴染みだった光景だ。深夜、決まって繰り広げられるのは、タクシীর争奪戦。都心では万札を掲げて手を振りながらタクシールーを止めようとするサラリーマンの姿も珍しくなかった。誰もが、好景気に浮かれる時代だった。当時は企業収益も給料も大幅上昇が続ぎ、個人

消費が活発で、GDPも4%の成長を記録。「明日は今日よりも豊かになる」との自信が列島に満ち、「山手線内の土地の値段で米国全土が買える」とまでいわれた「カネ持ち日本」の宴だった。そんなバブル景気はなぜ始まったのか。マーケットアナリストの平野憲一氏(ケイ・アセット代表)が言う。「バブルの直前、85年のプラザ合意でドル安政策が決まると急激な円高が進行し、輸出の落ち込みから日本は不況に陥りました。そこで、政府・日銀は大規模金融緩和を始めますが、急な資金需要は起きず、市中に溢れた

前回バブルの浮沈は激しかった(左から)ジュリアナ東京、山一證券の自主廃業



昭和・平成バブルとの違いは

そんな令和の株バブルは、30年前とは状況がまったく異なるという。「地方まで波及効果があつた当時のバブルと違い、いまのバブルは大都市と大企業に集中しています。株価の上昇も一部の大企業のみ現象。現在も多くの中小企業は経営が悪化しており、実質賃金も下がっています（森永氏）

前回のバブルでは鉄鋼、造船、非鉄金属、セメント、石油化学などの「重厚長大産業」が株価を牽引したが、半導体やITテクノロジーの普及に伴

場は、08年のリーマン・ショックに深く関連している」と経済アナリストの森永卓郎氏は言う。

「08年、深刻な不況に直面した各国の中央銀行は、超低金利で大量のお金を供給して何とか景気を刺激しようとした。日本でも、12年末に発足した第2次安倍政権の下、黒田東彦・日銀総裁が異次元金融緩和を開始します。ところが、経済成長の起爆剤となるはずだった各国のお金は魅力的な投資先が見つけられずに、投機に向かった。それがいまのバブルを引き起こしたのです」

い、現在は生成AIに代表される人工知能関連株などハイテク株中心の株価上昇となっている。日本企業の時価総額ランキングも一変した（左表）。

前出・岡山氏も、いまのところそうした令和の株バブルの恩恵に与る人は極めて限定的だと見る。「現在の高値相場の要因は、海外投資家、機関投資家が日本株を買っていることが背景にあります。今年4月に来日したウォーレン・バフェット氏が、日本株に強気の姿勢を示した影響も大きい。さら

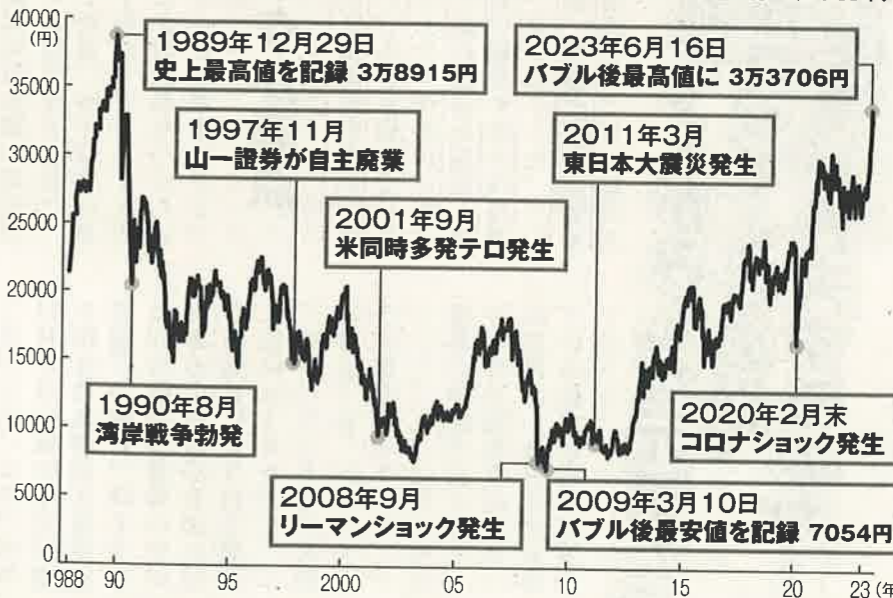
に、東京証券取引所によるPBR（※）1倍割れ企業への改善要請を受けての『自社株買い』や『増配』の動き、日銀による大規模金融緩和政策の継続も、世界的な日本株買いの後押ししています。

ただし、海外の投資マネーが流入して株価が高騰しても、株を保有していない多くの国民にまで恩恵が及んでいくかは疑問です。日経平均が4万円になっただけでは、国民生活が大きく変わることはないでしょう（同前）

一方、株価だけでなく不動産価格の上昇も見られる。不動産経済研究所によると、22年の首都圏新築マンション平均価格は6907万円と、バブル超えを果した。住宅ジャーナリストの山下和之氏が言う。

「特に都心マンションは物件が払底しており、その希少性の高さが価格上昇の原因でしょう。投資目的で買う以外に、自分

「その時、何が起こったか」日経平均株価の推移（1988～2023年）



※株価純資産倍率。企業の純資産に対する株式価値の水準を示す指標

失われた30年、で激変！日本企業の「時価総額ランキング」

1989年			2023年		
時価総額	企業名	順位	企業名	時価総額	順位
22兆9320億円	NTT(日本電信)	1	トヨタ自動車	36兆4966億円	1
15兆0023億円	日本興業銀行	2	キーエンス	16兆2852億円	2
10兆5499億円	住友銀行	3	ソニーグループ	16兆1797億円	3
9兆9884億円	富士銀行	4	NTT(日本電信電話)	15兆1617億円	4
9兆2140億円	第一勧業銀行	5	三菱UFJFG	12兆9224億円	5
9兆1642億円	三菱銀行	6	ファーストリテイリング	11兆3764億円	6
8兆1276億円	東京電力	7	KDDI	10兆2286億円	7
8兆0925億円	三和銀行	8	オリエンタルランド	10兆0833億円	8
7兆7086億円	トヨタ自動車	9	三菱商事	9兆8325億円	9
6兆7356億円	野村證券	10	ソフトバンクグループ	9兆5814億円	10

世界の時価総額ランキングで
上位20社中14社が日本企業

世界の時価総額ランキングで
トップ20に日本企業はゼロ

※時価総額＝89年は12月29日、23年は6月27日時点のもの。銀行名は合併前の旧行。FGIは「フィナンシャル・グループ」の略

どうすれば給料は上がるか

近い将来の日経平均の史上最高値更新、そして「4万円突破」を確実視する声もあるなかで、その恩恵が広く行き渡ることはないのだろうか。今後、令和バブルはどのような経過を辿るのか――

森永氏はこう見る。

「日銀は前回のバブル崩壊後、しばらく資金供給を絞り続け、不況を深刻化させました。今回もまた、金融引き締めを端緒にこの株バブルは崩壊するのではないかと」

森永氏は、庶民が実感を得られないまま令和の株バブルが弾けていく展開を懸念する。

「岸田政権は金融緩和と供給する資金量を示す指

標は、いまのところ一部の人たちを潤わせているだけで、それ以外の人たちとの格差が広がっていると見られているわけだ。

「前回のバブル期、地価や住宅価格の上昇は全国的な現象でしたが、現在の価格上昇は東京・大阪・名古屋の三大都市に加えて札幌、仙台、広島、福岡を目指す動きになる。

低迷を続けた日経平均と違って、米ダウ平均はこの30年間で約14倍に成長し、米国の労働者の給料は同期間に1.5倍以上に伸びました。その間、日本の給料の伸びはゼロでしたが、今後、幅広い業種の業績拡大、株価上昇となれば、会社員の給料・ボーナスアップも実現していくはずですよ」

上掲図に示した通り、この30年間で日本企業は世界の時価総額ランキング上位から姿を消した。そのままで「失われた30年」は終わらない。令和の株バブルをごく一部の人の宴で終わらせず、日本経済全体が強く魅了するための正念場は、これからやってくる。

標は、いまのところ一部の人たちを潤わせているだけで、それ以外の人たちとの格差が広がっていると見られているわけだ。

「前回のバブル期、地価や住宅価格の上昇は全国的な現象でしたが、現在の価格上昇は東京・大阪・名古屋の三大都市に加えて札幌、仙台、広島、福岡を目指す動きになる。

低迷を続けた日経平均と違って、米ダウ平均はこの30年間で約14倍に成長し、米国の労働者の給料は同期間に1.5倍以上に伸びました。その間、日本の給料の伸びはゼロでしたが、今後、幅広い業種の業績拡大、株価上昇となれば、会社員の給料・ボーナスアップも実現していくはずですよ」

上掲図に示した通り、この30年間で日本企業は世界の時価総額ランキング上位から姿を消した。そのままで「失われた30年」は終わらない。令和の株バブルをごく一部の人の宴で終わらせず、日本経済全体が強く魅了するための正念場は、これからやってくる。

『週刊ポスト』次号(7月21・28日号)は7月10日(月)発売です